

建設改良計画 妙琴浄水場更新整備事業 (R5～R25)

妙琴浄水場は昭和45（1970）年から昭和48（1973）年に建設された、浄水処理能力30,000m³/日の急速ろ過方式の浄水場です。当浄水場は、市民の6割以上の飲料水を賄う水道事業の心臓部でありながら、老朽化や耐震性等の脆弱性に加え、近年頻発している集中豪雨等の影響による水道原水の高濁度に対応するため、砂払浄水場や野底浄水場等への補完機能も有しており、最優先で耐震化を伴う更新整備を行う必要があります。

更新整備事業は長期間にわたる事業であり、浄水施設を運転しながらの切替となるため、点検、状態監視を綿密に行い各施設の延命を図りながら更新を進める必要があります。

ステップ1 令和5年度～令和7年度

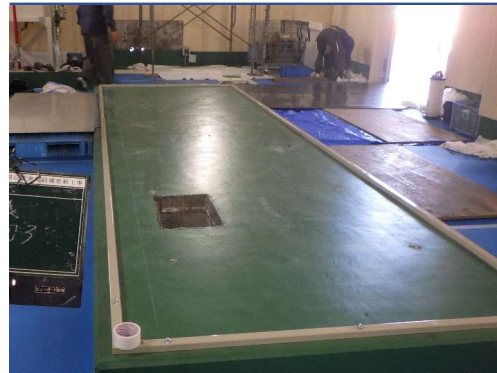
妙琴浄水場の更新工事は10のステップで更新整備を進める計画で、ステップ1は令和5年度から7年度まで3年間で、自家発電設備、薬品注入施設の更新工事を行いました。

①自家発電設備更新工事

旧非常用発電機 (300KVA)



旧非常用発電機撤去



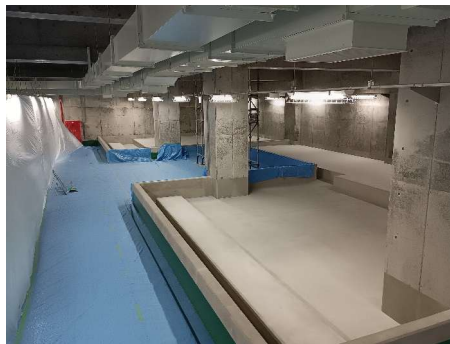
新非常用発電機 (500KVA)



②薬品注入施設更新工事

(次亜・PAC・苛性ソーダ)

施行前



注入ポンプ設置状況



貯水槽設置状況



薬品受入れ口設置状況



建設改良計画 沢城中継ポンプ場整備事業（R5～R7）

水道事業経営戦略の建設改良計画に基づいて令和5年度に詳細設計を行い、令和6年度から令和7年度まで2年間で沢城中継ポンプ場の建設を行いました。

沢城浄水場廃止に向けた事業となり、大瀬木高区配水池（妙琴浄水場系）に隣接して、今後更新予定の沢城配水池へ送水するためのポンプを整備しました。今後は送水先となる沢城配水池の更新整備を進めていきます。

着手前



工事完了



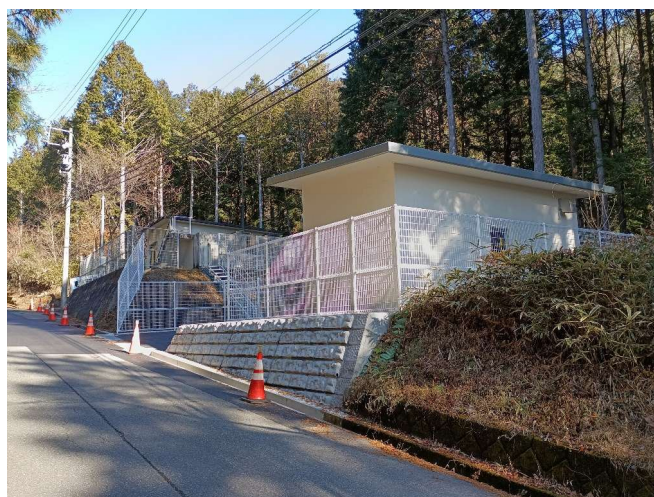
工事完了



着手前



工事完了



送水ポンプ室



建設改良計画 入野中継ポンプ場整備事業（R6～R8）

入野中継ポンプ場築造工事は、西部山麓ポンプ場と西部山麓配水池の中間点に新たに整備するポンプ場です。

西部山麓ポンプ場から西部山麓配水池まで高低差162mをポンプ送水しており、送水ポンプと送水管の負担を軽減させるため中間地点に中継ポンプ場を建設します。

また、今後整備する入野大瀬木配水池（仮称）へ送水し、複数施設の統廃合や水道システムの合理化を進める入野大瀬木配水池関連事業です。

当事業は、令和6年度から令和8年度まで3年間の工事の入野中継ポンプ場の建設を行っており、現在施工中です。

西部山麓線から望む完成イメージ



工事状況（令和7年6月）



工事状況（令和8年3月）



地盤改良施工



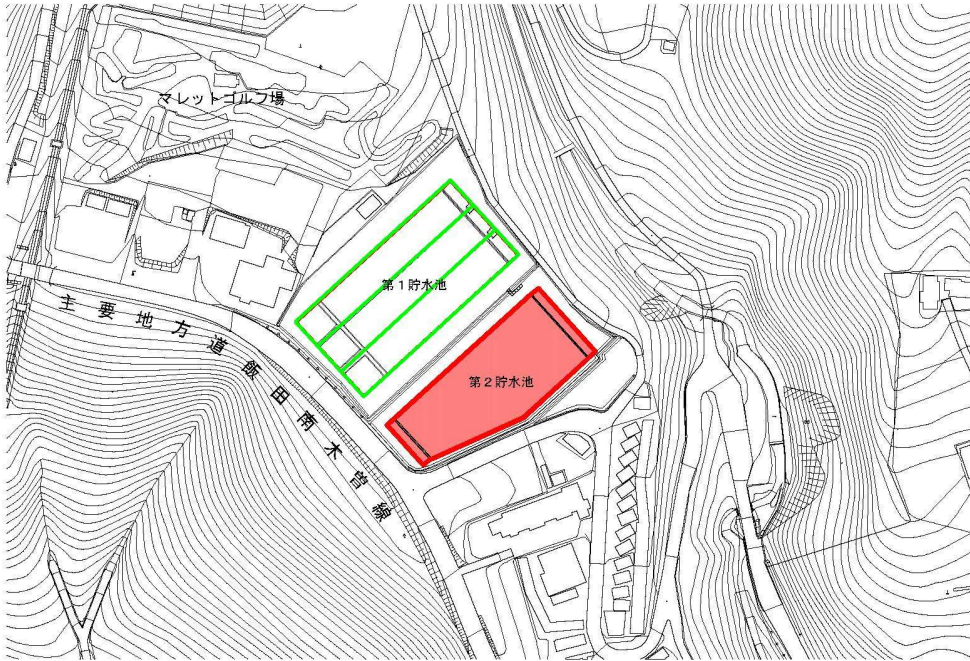
コンクリート打設

建設改良計画 風越貯水池耐震補強事業 (R6～R8)

風越貯水池は1967年に築造され、58年経過したコンクリート構造物で、令和2年度の劣化度調査、令和5年度の耐震診断の結果から、耐震補強の必要があることが確認され、令和6年度に補修を含めた耐震設計業務を実施しました。

耐震工事は、令和6年度から8年度まで3年間の工事で、令和7年度は第2貯水池を施工しました。

風越貯水池 現況平面図 S=Free



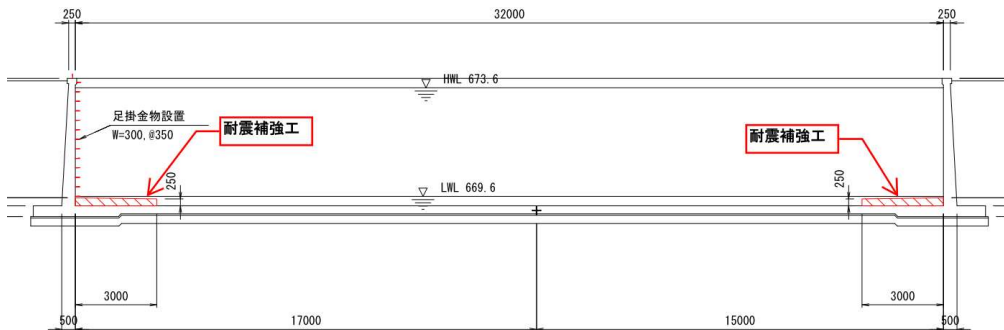
第1貯水池着手前



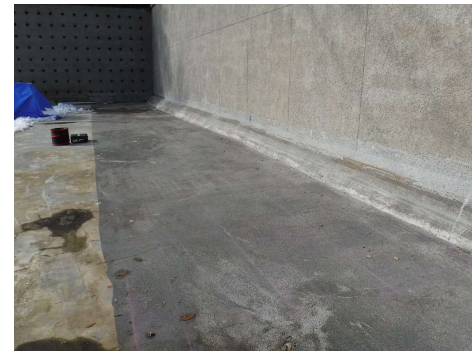
第2貯水池水抜き清掃作業



B-B断面図



第2貯水池耐震補強工前



第2貯水池耐震補強工完了

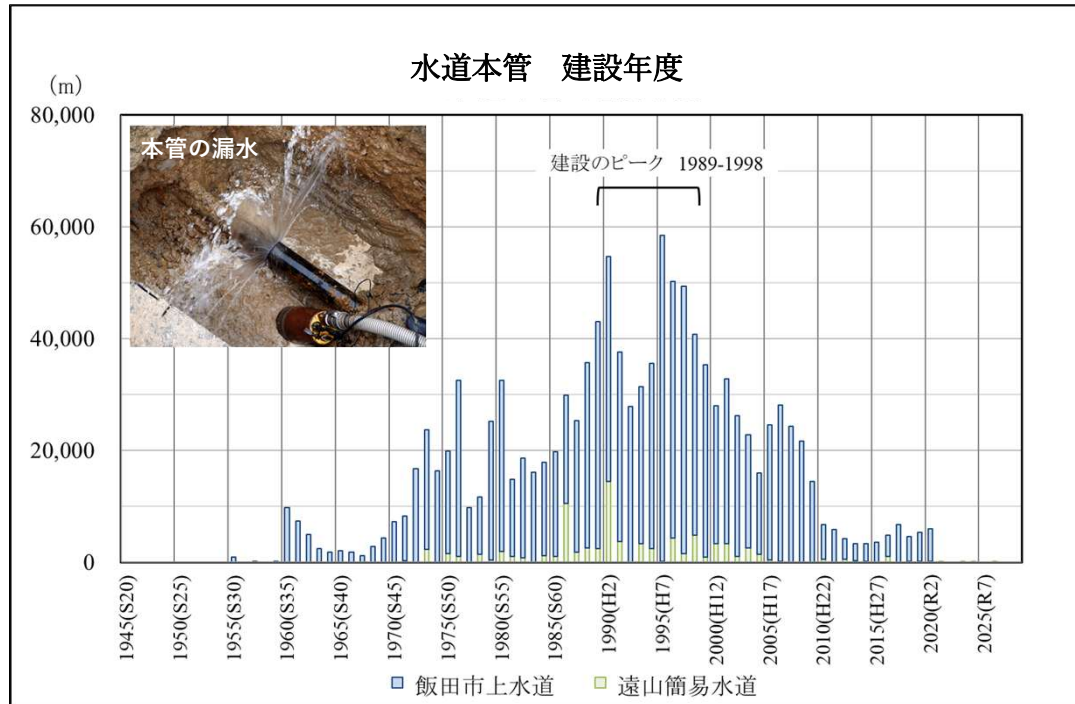


建設改良計画 老朽管布設替事業 (R5~R28)

飯田市の水道は1955年（昭和30年）代から本格的に整備が始まり、古いもので60年を経過した管が残存しています。

今後は建設ピークの水道管が一気に法定耐用年数（40年）を超え、老朽化することが想定されるため更新事業を平準化し、老朽管の布設替（耐震化）を計画的に実施していく必要があります。

事業実施にあたっては、物理的評価（実耐用年数）と重要度評価（管分類、口径等）により優先度の判定を行い、順位の高い箇所から施工箇所が集中しないよう計画的に実施しています。



管路の布設替

松尾城・水城 (HPPE型) ϕ 75mm



高羽町 (HPPE型) ϕ 100mm



水管橋の布設替 鼎

工事前 (亜鉛メッキ鋼管 ϕ 100mm)



工事後 (ステンレス鋼管 ϕ 75mm)



老朽管布設替実績

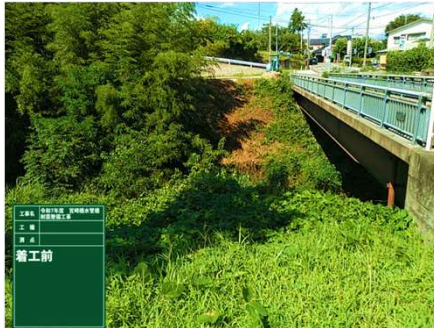
令和4年度	L=3,169m	令和5年度	L=2,389m
令和6年度	L=3,286m	令和7年度	L=2,760m

建設改良計画 基幹管路耐震化事業 (R5~R28)

基幹管路は水源から浄水場、浄水場から配水池、配水池から配水池を結ぶ重要施設管路（導水管、送水管等）で地震や風水害、漏水などで事故が発生すると大規模な断水などを引き起こす可能性がある管路です。この重要施設管路の耐震化を進めています。

砂払浄水場から上郷第4配水池を結ぶ重要施設管路

座光寺 宮崎橋 $\phi 150\text{mm}$ (更新前)



座光寺 宮崎橋 $\phi 150\text{mm}$ (更新後)

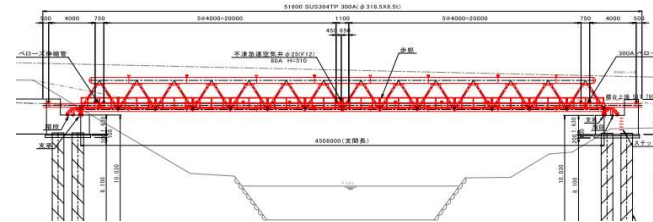


水神橋

アリッド外装のリフレッシュ管 $\phi 150\text{mm}$



砂払浄水場から下黒田配水池を結ぶ重要施設管路 野底川水管橋 側面図 $\phi 300\text{mm}$ (R7~R9)



野底川水管橋 (更新前) $\phi 400\text{mm}$



工事状況 (R8年3月)



飯田税務署前 (開削工) GX型 $\phi 400\text{mm}$



松洞川横断 (推進工事) GX型 $\phi 400\text{mm}$

